博物館におけるウォーキングイベントの企画・実施方法について ~ 埼玉県立川の博物館での実施例より~

羽田武朗 (川の博物館)

1.はじめに

埼玉県立川の博物館(以下、当館)では、一般の方々を対象とした講座「荒川ゼミナール」を開講している。

この講座は、荒川流域の歴史や自然等を テーマとした「講演会」と、「大人の遠足」 という呼称のウォーキングイベント、主にこ の2種類のイベントから構成されている¹。

筆者はここ数年、試行錯誤の中で、特に上 記のウォーキングイベントの企画・立案・実 施に携わってきた。

本稿では、これまで筆者が企画・立案・実施に携わってきたウォーキングイベントについて振り返り、博物館におけるウォーキングイベントのあり方やその発展、応用の可能性について探っていきたい。

2. 当館実施ウォーキングイベントの基本コンセプトについて

当館でこれまで実施してきたウォーキング イベントの基本コンセプトについてまとめて 述べてみたい。

まずは、募集要項等について以下に記す。

- ①対象:一般2
- ②料金:100円(保険料)
 - *別途施設入館料等が必要となる場合は、 参加者自己負担。
- ③募集人数:20名
- ④配布資料:簡易的な解説が入ったウォーキングマップ(図1)などを適宜準備。A3カラー刷りで2枚程度。

次に、基本事項について以下に記す。

ポイント①:人文系・自然系の学芸員がそれ ぞれ同行し、両分野の解説を行 う。

ポイント②: ウォーキングの距離は8~10kmを目安とし、その上でコース選定を図る。

ポイント③:イベントの実施時間は、午前 10:00から午後4:00を目安とする。

ポイント④:可能な限り、公共交通機関を利

用し、集合・解散できる場所を 候補地とする。

ポイント⑤: 当館の展示テーマに即したコース選定を図る。

以上、上記の基本コンセプトの下で、これ までウォーキングイベントを実施してきた。

3. 当館でのこれまでの実施例とその分類

ここ数年実施してきたウォーキングイベントを、コース選定やその性格等から分類すると、以下のように①~④の四系統に分類することができると考えられる³。またあわせて実施した各コースの概要も記す。

①既存のコースにアレンジを加えたコース JRをはじめ、東武鉄道や西武鉄道、秩父 鉄道等の私鉄各線の駅では、春先や秋口を中 心に沿線の名所を巡るウォーキングマップが 配布されている。

また各自治体でも、地域の特色を生かした バラエティに富んだウォーキングコースの設 定や、ウォーキングマップの配布を行っている。 これら既存のコースを参考に、当館のス タッフの手でアレンジを加えてウォーキング コースを選定。

- コース1 東武東上線高坂駅を起点に比企丘 陵を巡るコース。東松山市ウォーキングセンターが配布している 「岩殿観音森林浴コース」4を参考にコースを選定。
- コース 2 「武州寄居十二支守り本尊まいり」 コース。東武鉄道が配布している、 寄居町内 8 ヶ所の寺院を巡る ウォーキングコースに、寄居町の 歴史や自然を紹介する解説ポイン トを加えてコースを選定。
- ②当館の所在地である寄居町の観光資源を生かしたコース

当館周辺の季節的な観光資源に注目し、これらスポットを軸にウォーキングコースを選定⁵。

コース1 風布川沿いを散策しながら、日本

北限のみかん園「風布観光みかん 園」を巡るコース。このコースで はウォーキングに「みかん狩り」 の要素を加えて実施。

コース 2 日本百名城の一つ「鉢形城」周辺 を散策するコース。鉢形城跡のエ ドヒガンやカタクリの花の開花時 期に合わせて実施。

③河川や水に絡めたコース

当館の展示テーマにあわせ、ウォーキングコースの中に、「河川」や「水」に関する見学ポイントを盛り込んでウォーキングコースを選定。

- コース1 旧・川本町(現・深谷市)の畠山 重忠ゆかりの史跡と六堰を巡る コース。源平合戦期の武将畠山重 忠ゆかりの史跡の見学に加えて、 埼玉県北部の農業を支えてきた六 堰等の利水施設を見学。
- コース 2 旧・児玉町(現・本庄市)の近代 化遺産を巡るコース。小山川河川 敷を散策しながら、重要文化財に も指定されている、間瀬湖堰堤や 児玉町旧配水塔等の利水施設等を 見学。

④荒川流域の自然・歴史をたどるコース

荒川流域沿いで、歴史や自然の解説をふまえながら、ウォーキングが実施できそうな場所を探し、ウォーキングコースを選定。本稿で①~④に分類したウォーキングコースの中では一番オリジナリティーが高く、また同時に当館の展示テーマに即したコースであると考えられる 6 。

- コース1 元・荒川だった場所を歩くコース I。江戸時代の荒川の瀬替え箇所 である、熊谷市久下周辺を歩く コース。元荒川の起点や、熊谷市 ムサシトミヨ保護センターの見学 をしながら、荒川の舟運の歴史や、 洪水・治水の歴史を伝えるスポッ トを見学(写真1・図1)。
- コース 2 元・荒川だった場所を歩くコース II。荒川放水路掘削まで、荒川の 最下流部であった隅田川沿いの歴 史スポットを巡るコース。この コースでは、JR両国駅から東武

スカイツリーラインとうきょうスカイツリー駅までの間の、隅田川 左岸側に点在する史跡を中心に見 学。

- コース4 荒川の源流域を歩くコース。当館に来館された方やウォーキングイベントに参加された方から、荒川の上流や源流域を歩くことができるような企画を実施してもらいたいとの要望を受け、企画。川又バス停(秩父市大滝)を出発し、トロッコ軌道跡を散策しながら、「一級河川荒川起点の碑」までを歩くコースを選定。

4. 実施例をふまえての検討~ウォーキング イベントの実施方法についての一提案~

これまで試行錯誤を繰り返しながら、上記 の通り様々なコース選定を行い、ウォーキン グイベントを実施してきた。

実施してきたコースの中には、当館の展示 テーマ等に無理に実施内容を合わせようと試 みたものを含まれ、その結果ウォーキングイ ベント自体が持つ性格に、「学芸員が解説を しながら歩く」という共通の項目以外に、多 くのバリエーションが出てしまう結果になっ てしまったように考えられる。

講演会等の他のイベントも含め、荒川ゼミナール参加者の方々の声に耳を傾けると、当館のイベントに期待されている点は、圧倒的

に「川(荒川)」に関するものである。また、 求められる内容も、特別なテーマというより はむしろ一般的なテーマである。

例えば、上記④のコース $1\sim3$ 、「元・荒川だった場所を見に行く」ウォーキングイベントは、コースのタイトルでも明らかにように、参加者に大きなテーマが明確に提示され、ウォーキングの目的がわかりやすく明示されると同時に、当館に期待する面に沿った内容といえる。

また筆者が企画を担当し、立案し始めた頃は、道中の見学スポットを選定する際に、あまり明確な選定基準を設けることはなく、コース上に登場する場所を順に巡る傾向が強かった。

しかし、それでは結果的にコース全体のテーマ(目的)が薄れてしまい、スポット毎に解説を行う利点が薄れてしまっていた。そこで回を重ねる毎に、下見等の下準備の段階で見えてくるコースの全体像から、コースのテーマそして見学スポットの選定基準をより明確にし、イベント全体の方向性と実施目的(学習テーマ)をより鮮明に打ち出せるように心がけた。

このテーマ設定は一定以上の成果は出ているものと考えられ、「学芸員の解説があるウォーキング」として定着しつつある本ウォーキングイベントの一つの実施スタイルとして確立しつつある形であると同時に、ぜひ確立させるべき点であると考えられる。

またコース選定の基準となる基本軸の策定 も必要ではないかと考えられる。ある程度基 本軸を設定した上で、コース策定をし、より 博物館の展示コンセプトに即した形に近づけ られるように、あるいは他機関実施のウォー キングイベントとの差異を出すため、つまり ウォーキングイベントが「学習の場としての 博物館」の機能を果たせるように努めるべき であると考えられる。

また同時にこれまで実施してきたイベント の発展・応用の可能性を探っていく必要も感 じられる。

次に、今年度筆者が担当した小学校への出 張授業の事例から、学校教育への応用の可能 性について述べてみたい。

5. ウォーキングイベントの出張授業・体験 学習への応用の可能性について

当館のウォーキングイベントは、これまで 一般向けの講座として実施してきた。

前述の通り、未就学児や小・中学生の参加 も可能としてきたが、行程中の解説等は一般 向けに設定し、実施してきた。

そのような状況の中で、今年度、小学校2年生を対象とした出張授業⁷の依頼が届いた。学校側からの要望としては、生徒に教科書の内容に沿ったような学習ではなく、学校の周辺で体験を通じて、歴史や自然について学ばせたいというものであった。

そこで、これまで実施してきたウォーキングイベントを応用する形で、学校周辺の歴史・自然を学ぶ「町探検」の提案をし、学校側の了承を得た上で、学習プログラムの立案を行った。

ここでは、上記の事例を基に、当館が通常 依頼を受ける出張授業や体験授業等の内容を ふまえながら、ウォーキングイベントの学校 教育への応用の可能性について考えてみたい。

まずは、上記出張授業の概要についてまとめてみたい。上記事例実施にあたっては、事前に以下のような準備を行った。

【準備内容】

- ・学校との事前打ち合わせ5回*うち、電話・FAXでの打ち合わせ3回。
- ・学校周辺での下見 2回
- ・探検用の地図の作成
 - * A 4 カラー両面刷り。表面には探検のポイント、裏面に簡易地図を掲載。

また、本稿で取り上げる本事例に関しては、 授業を実施するにあたって、依頼者である【学 校側】のポイントと実施者である【博物館側】 のポイントが含まれ、これら双方のポイント をふまえた上で、授業プログラムを作成する 必要があった。

この点は、今後の出張授業・体験授業への 応用を考えていく中で、極めて重要なポイン トになり得ると考えられるため、ここで【学 校側】【博物館側】それぞれのポイントにつ いて、まとめて記してみたい。

【学校側】のポイント

・既に「町探検」は学校側のスタッフで一度 実施しており、その上であえて博物館の学 芸員に依頼の上、再度実施していただきたい。

・学校周辺の地域に関する学習や、地図の見 方等の学習は3年生で学ぶ範囲であり、そ の点を考慮したうえで、プログラムの立案 や地図の作成してほしい。

【博物館側】のポイント

- ・既に1度実施した内容に、いかに博物館として、あるいは担当学芸員としてのオリジナルの追加要素を入れることができるか?この点にこれまで実施してきたウォーキングイベントの手法を入れることができないか?
- ・学校の周辺に関しては、いくら事前に下見 や予習をするとはいえ、他地域で生活して いる博物館のスタッフよりも、小学校低学 年とはいえ自地域で生活している生徒の方 が、知識が豊富である可能性は高い。その 上で博物館のスタッフは何ができるのか? 事前打ち合わせや下見の段階から、上記学 校側のポイント2点、博物館側のポイント2 点を考慮した上で計画ならびに準備を進めた。 そのような状況の中で実施した学習内容の要 点をまとめると、以下のようになる。

【実施内容】

- ・実施時間は授業時間で2時間(45分×2)、 授業間休みも含めると計100分程度。
- ・探検用の地図には、一部地図記号を使用するなど、本来の2年生の学習内容ではない 学習要素を入れたが、基本はイラストを使 用し、生徒に探検する場所の把握をよりし やすくなるように心がけた。これら本来2 年生で学習する内容以外の点に関しては、 事前に参加児童に説明を行った。
- ・出発前に、探検に出かける準備として2点 下準備を行った。1点目は今回の探検の趣 旨(テーマ)の説明。探検のテーマは「学 芸員なりの探検の楽しみ方」とし、筆者が これまで担当してきたウォーキングイベン トでの経験や、展示のための資料調査、個 人的な旅行の際に実施してきたことを生徒 に経験してもらうことにした。もう1点自 分の家、公園などを確認してもらい、今日 は具体的にどの辺を探検するのかを、前 もって説明した。
- ・生徒には探検中に簡単な課題を課し、探検

- 中に取り組んでもらうことにした。今回は、 信号や工場、友人の家など、生徒達に自分 で決めた物の数を数えてもらうことにした。
- ・探検ポイントでは、解説は最小限に留め、 解説ではなく体験活動に重点を置き、生徒 達が体験を通じて新たな発見や疑問が生じ るように働きかけた。
- ・探検途中に、案内者である筆者からではなく、参加者である生徒達が案内するポイントを設け、より自分が暮らす地域について 理解を深めてもらえるように促した。

はじめての試みということもあり、試行錯誤の繰り返しの中で実施した今年度の実施例ではあったが、その中からこれまでのウォーキングイベントの発展・応用の可能性や、今後の体験授業や出張授業等の継続的な受け入れの可能性を見出せたのではないかと思われる。

ただ今年度の事例は、山間部の少人数クラスからの依頼であったがために実現できた側面も強い。

当館には例年、県内・県外の小・中学校から、主に河川の学習に関する多くの出張授業・体験授業の依頼が寄せられている⁸。次の段階として、当館に通常寄せられるこれら体験授業や出張授業の依頼を念頭に入れ、これまで実施してきた体験授業プログラムを、ウォーキングの中に組み込んだ、「探検型プログラム」と呼べるようなプログラムの開発を目指していきたい。

このプログラムを実際に実施する場合は、 依頼を受けた学校の立地場所等からその都度、 テーマの設定、コースの設定等の準備が必然 となってくると思われるが、ウォーキングイ ベント同様にその前提となる基本コンセプト を事前に考えておく必要があると思われる。

今現在筆者が考える基本コンセプトをまとめると、以下の4点になる。

- ①各学年の通常の学習内容をふまえた上での、 学習難易度の設定。
- ②都市部、平野部、山間部といった、各学校 の地域的・環境的な特徴に適応できるよう な基本コンセプトの設定。
- ③可能な限り、当館の展示テーマであり、また学校側が当館に期待している点でもある「川」というキーワードをプログラムの中に組み込む。

④通常のウォーキングイベント同様に、歴史・ 自然両分野にまたがる学習ができるように する。

6. おわりに

本稿では、当館でこれまで実施してきた ウォーキングイベントを振り返ることで、博 物館におけるウォーキングイベントのあり方 や、体験学習・出張授業への応用の可能性に ついて述べてきた。

最後に本稿のまとめとして、今後筆者自身がウォーキングイベントを企画するにあたっての基本コンセプトや、体験学習・出張授業への応用に関して改めて述べてみたい。

ウォーキングイベントを博物館が主催する 生涯学習の場として考えた場合、やはり各博 物館の性格に合わせた方向性を打ち立てる必 要があると感じられる。

当館の場合、他での実施例などを参考にした場合もあったが、参加者の満足度から推し量った場合、やはり当館のテーマである「川(荒川)」に関するウォーキングイベントの方がより参加者の満足度の度合いは高かったと思われる。

継続イベントとして、「元・荒川」だった 場所へ出かけるウォーキングイベントを実施 してきたが、このようなイベントを今後も継 続し、現在の曖昧な方向性ではなく、より明 確な方向性を打ち出していけるようにすべき と考える。現在考える方向性をまとめると、 以下の6点になる。

- ①シリーズ化させたウォーキングイベントの継続あるいはウォーキングコースのモデル化。
- ②各ウォーキングイベントには毎回テーマをも たせ、参加者は特にそのテーマに関する知 識を中心に習得していただけるようにする。
- ③これまで実施してきた通り、担当学芸員は 文系・自然系両分野の学芸員が担当し、双 方がテーマを定め企画する。
- ④ウォーキングイベントが一過性のものにならないように、広く情報が発信できるような体制を築く。これまで実施したウォーキングイベントの中に、マップ化し、配布したものもあるが(図1~4)(参考資料1・2)、このような形に限らず、ホームページ上での公開等を含め、情報の発信方法の

確立を目指す。

- ⑤他館や地方自治体、地域のボランティア団体など、日ごろ地域に根付いた活動に従事されている方々の協力を得て、ウォーキング中により詳しい解説をいただく、あるいは共同で実施できるような体制を構築する。。
- ⑥一般向けに実施してきたウォーキングイベントの手法を生かし、小学生向けの体験授業等(町探検や地域学習)などへ応用して実施する。

上記の6点を考慮しながら、今後のイベント等に従事していきたい。

謝辞

筆者がこれまで担当したウォーキングイベントは、当館のスタッフを含め多くの方々の協力の下で成立しております。この場を借りてこれまで御協力をいただいた全ての方々に心から御礼を申し上げます。

参考資料

埼玉県立川の博物館編 『かわはくから ウォーキング』

同上 2011 『畠山重忠の故郷を歩く 旧川本 町編』(かわはくウォーキングMAP)・・・1

同上 2012 『元・荒川だった場所を歩こう!隅田川編・第一弾』(かわはくウォーキングMAP)・・・2

- 1 平成24年度は、上記のイベントに加え秩父地域のジオサイト等を見学する「かわはく青空教室」も開催した。
- 2 募集対象が一般とはいえ、未就学児や小学生の参加も、保 護者の責任の元で認めている。
- 3 他にも実施例はあるが、本稿では特に筆者が実際にイベントに従事した事例や、ウォーキングイベントの性格が明確な事例から検討していきたい。
- 4 東松山市ウォーキングセンターのホームページ上でコース は公開されている。

http://www.aya.or.jp/~h-matsu/wcenter/07fcorse.htm

- 5 このウォーキングに関しては、当館の自然分野担当の学芸員が中心となって企画を立て、筆者は補助に回っている。
- 6 コース1~3 については、当館の地質担当の学芸員と一緒 に企画・実施したため、道中に荒川流域の地質に関する見 学ポイントや、解説ポイントを多く配置した。
- 7 ここでいう「出張授業」や「体験授業」とはそれぞれ以下のような事例のことをいう。学校に赴いて当館のスタッフが実施する授業が、「出張授業」。当館に来館いただき、当館の周辺で、当館のスタッフが実施する授業が「体験授業」。
- 8 平成24年度は計75校強の対応を行った。
- 9 これまでの実施例でいえば、系統④のコース1内で実施した、「熊谷市ムサシトミヨ保護センターの見学」がこれにあたる。



写真1 平成24年度実施風景 「元・荒 川だった場所を見に行こう 久 下編」



写真2 平成24年度実施風景 「元・荒 川だった場所を見に行こう 隅 田川編」





図2 作成ウォーキングマップ (表面)

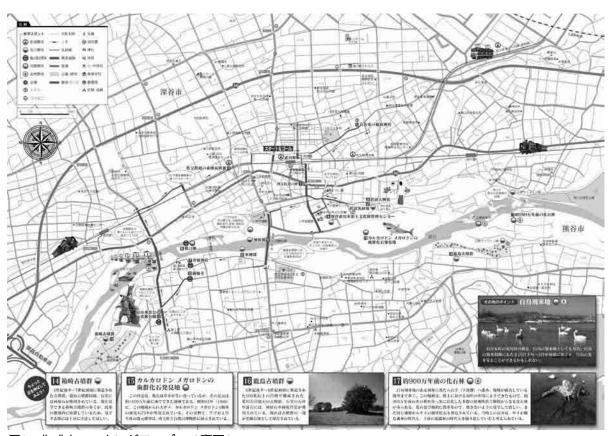


図3 作成ウォーキングマップ (裏面)



図4 作成ウォーキングマップ (表面)

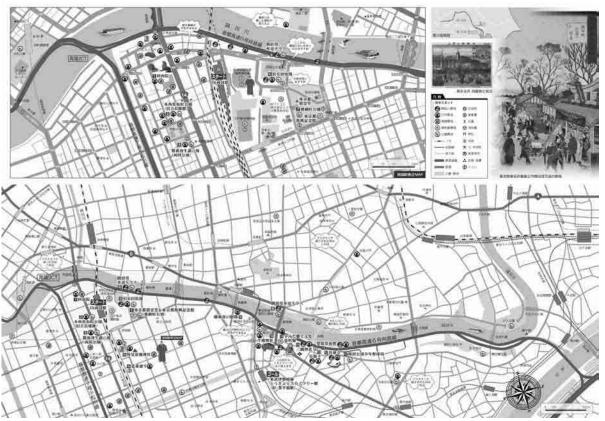


図5 作成ウォーキングマップ (裏面)